

令和元年度 青森県病床機能転換専門研修会 報告書

担当常務理事 伊藤博次

本事業は青森県から受けた委託事業であり、在宅医療及び回復期機能に係る専門的知識の向上とそれを担う人材の育成を目的とするものであり、薬剤師会としては、県内6地区において薬剤師及び多職種を対象として開催する事とし、内容については、各地域で必要としている内容があれば企画し、特にない場合は開催事務局（在宅委員会案）が提案する内容で開催する事とした。

青森地区：「多職種に知ってほしい口腔ケア」

八戸地区：「薬剤師が患家を『訪問』するということ」

上十三地区：「事例報告」

という独自のテーマで開催した。

弘前、西北五、むつ下北の3地区においては、

「薬が生活に影響を与えているかも事例報告」 後にグループワークを行う

という委員会案で開催いたしました。

日程、参加人数は下記の通りです。

地区	開催日	開催場所	参加人数
青森	令和元年11月28日(木)	県民福祉プラザ	66名 (薬剤師55、多職種11)
弘前	令和元年11月28日(木)	青森県武道館	40名 (薬剤師22、多職種18)
八戸	令和元年10月2日(水)	八戸プラザホテル	83名 (薬剤師51、多職種32)
西北五	令和元年10月18日(金)	ホテルサンルート五所川原	52名 (薬剤師18、多職種34)
上十三	令和元年11月19日(火)	サンロイヤル十和田	71名 (薬剤師45、多職種26)
むつ	令和元年11月21日(木)	プラザホテルむつ	27名 (薬剤師16、多職種11)
		合計	339名 (薬剤師207、多職種132)

## [報告]

- ・ 独自のテーマで開催した3地区については、参加人数や報告を見ると非常に有効な研修会であったような印象があります。

### <青森地区>

青森地区では、口腔ケアについての講義形式の研修会だったようですが、口腔ケアの概念から口に影響を与えている薬剤、治療、訪問歯科での実際についてのお話。多職種で同じテーマを学ぶことで問題点や知識を共有する事ができた。

### <八戸地区>

八戸地区では、医師、ケアマネジャー、作業療法士、行政、薬剤師、それぞれの立場から患家を訪問することをテーマに薬剤師の在宅における役割をアピールできたのでは。そして他職種の役割も理解することができてとても良かったようです。

### <上十三地区>

上十三地区では薬剤師、ケアマネからの事例発表でした。普段実績がないので、具体的な事例の発表でとても参考になったようです。終了後のアンケートを見てもケアマネジャーの具体的な業務がわかって良かった。今後も各職種の具体的な業務内容を知りたい等の意見があったようです。

### <弘前、西北五、むつ下北地区>

- ・ 弘前、西北五、むつ下北地区においては、委員会案で開催された。形式は、木村会長から「ケアプラン点検で薬が生活に影響を与えているかもしれない事例」を報告してもらい、その後グループワークを行い、それぞれの職種の視点で課題や解決策について検討し発表する。という形で行われました。どの地区でも非常に盛り上がり、時間を延長する地区もあったようです。今後、在宅における薬剤師の職能のアピールをしていく上で、この形式（薬が問題になっていそうな症例を使ったグループワーク）は非常に有効でした。

## [今後の課題と考察]

今年度の病床機能転換専門研修会の各地区の報告を見ると、どの地区も多少の温度差はあるが、確実に連携の輪は広がってきているように思います。6地区で終了後にアンケートも行っていて、それぞれの課題も見えてきているようなので、今後につなげて行きたいと思います。

今年度は形式をそれぞれの地区に任せる形で行いましたが、今回の委員会案は薬剤師の在宅における役割を多職種へアピールするには最善ではないかと感じました。今後、また本事業が来るような時は、全地域テーマや形式を統一した形で進めていきたいと思いました。

【開催日時】 令和1年11月28日(木) 19時15分～21時

【開催場所】 県民福祉プラザ 4階 県民ホール

【研修会次第】

1. 開催挨拶 一般社団法人 青森市薬剤師会 会長 近井 宏樹
2. 講演 「多職種に知ってほしい口腔ケア」  
講師 訪問歯科クリニックこすもす 院長 古枝<sup>ふるえだ</sup> 和也 先生

【参加者数】 全体→66名（薬剤師：55名 他職種：11名）

【報告】 今回は講義形式の研修会とし、口腔ケアに多職種が関われることを狙いとして、実際に訪問歯科で多職種連携を実践されている訪問歯科クリニックこすもす院長の古枝和也先生を講師にお招きして、口腔ケアの概念から口に影響を与えている薬剤、治療、訪問歯科での実際についてお話していただいた。

参加申し込みの時点では薬剤師71名、他職種12名の計83名の予定だったが、月末で悪天候であったため、出席率自体はまずまずであったが、他職種の方々は申し込みの9割は出席いただけた。口腔ケアは薬剤師のみならず他職種も関心が高い事が伺えた。

多職種用アンケートの結果については研修参加者の回答を元としているため、青森地区全体としての現状かどうかは判断しにくいですが、多職種連携については進んでいると回答している方が殆どとなった。

連携している職種についても医師、薬剤師、ケアマネジャーそれから訪問看護師が挙げられた。連携不足だと感じる職種については、医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネなどが挙げられ、連携がスムーズに行かない場合もある事が伺えた。

今後の研修希望については、在宅移行・多職種連携において情報共有や情報取得の仕方、介護保険制度やサービスの内容などの基本的な知識や、どの職種とどのように関わっていけば良いのか、そういったことも学びたいなどの意見もあった。

薬剤師対象のアンケート結果からは、在宅移行に中々繋がらないことや、マンパワーの問題により在宅訪問やサビ坦・カンファレンスに赴けないこと、外来業務との折り合いの難しさについてのコメントが多かった。

在宅医療の基本のキについては研修などでどんどん知識を共有する事は可能であるが、人員や地域の事情などで進まない部分についてのフォローを県薬だけでなく多方面の連携により進めなくてはいけないのではないかと。



## 弘前 病床機能転換専門研修会 報告書

報告者：相馬 渉

日時：令和元年 11 月 28 日(木) 19:00～20:50

場所：青森県武道館

参加者： 40 名 (薬剤師 22 名 多職種：18 名)

### 報告

参加予定は、45 名でしたが、当日の雪が降り天候もよくなかったので、40 名の参加でした。1 グループ 6 名で、7 グループ用意していたが、欠席があると、職種のバランスを考えてグループ分けが難しかった。

木村会長からケアプラン点検で薬が生活に影響を与えているかも事例を報告。

グループワークのテーマは、薬が生活に与えているケース、薬剤師・病院、ケアマネの連携の難しさなど

その後、グループワークを行い多職種の視点で検討してもらい、それぞれの課題や解決策について各グループで発表。すべてのグループに発表してもらい全体共有できたのはよかった。

グループワークは盛り上がり、20 分延長してしまった。

### 今後の課題と反省点

今回は多職種への参加呼びかけに苦勞した。弘前市のすべての 7 包括からは参加があったのはよかったが、その他の職種の参加がなかった。津軽地域ケアネットワークで、広報したので、ある程度参加を期待したが、参加がなかったのは残念だった。

参加者から、参加してよかったなど、またやりたいなどの声もあったので、継続して多職種研修会を企画していきたい。

ケアマネジャー、ヘルパーの出席率が悪く、活発な議論をするために多数出席してもらうため周知と研修会日程、時間帯を検討する必要があると感じた。



令和元年 青森県病床機能転換専門研修会

日 時 令和元年 10 月 2 日（水） 19 時 30 分～21 時 00 分

場 所 八戸プラザホテル 2 階 桜の間

〒031-0081 八戸市柏崎 1-6-6

TEL 0178-44-3121

19：30 開会

司会進行：青森県薬剤師会医療保険委員会在宅グループ 大久保幸子

19：32 話題提供

「薬剤師が患家を『訪問』するということ」

青森県薬剤師会 副会長

医療保険委員会在宅グループ 青柳伸一 先生

1. 作業療法士の視点 19:50～20:00

青森県作業療法士会 地域作業療法推進委員会委員

メディカルコート八戸西病院 リハビリテーション部

在宅リハビリテーション支援科 作業療法士 阿世知知子様

2. ケアマネジャーの視点 20:00～20:10

青森県介護支援専門員協会八戸支部 副支部長

サンシャイン居宅介護支援事業所 ケアマネジャー 晴山久美子様

3. 医師の視点 20:10～20:40

西口内科 院長 小俣高宏先生

4. 行政の視点 20:40～20:50

五戸町地域包括支援センター 藤井るみ子様

5. 薬剤師の視点 20:50～21:00

青森県薬剤師会 医療保険委員会在宅グループ

五戸調剤薬局 薬剤師 前田法晃先生

21：00 閉会

#### 《協力依頼方法》

- ・ケアマネ協会への依頼
- ・もともと交流があった（顔が知っている仲）方への依頼
- ・八戸薬剤師会メーリングリスト

#### 《参加者募集方法》

- ・SNS（Facebook・MeLL+が展開する Connect 8 など）の活用
- ・八戸薬剤師会メーリングリスト

#### 《参加者》

薬剤師数；51名。

多職種数；32名。

協力した受付スタッフ；飯田・鶴岡・菅・百日鬼（地域連携委員会）（敬称略）

薬剤師アンケート回収率；29枚／44枚（運営スタッフ・演者の数除く）「約66%」

薬剤師用アンケート Q5；「在宅への取り組み意欲が向上した」；23／29；「約79%」

#### 《反省点》

各演者の資料やアンケートの印刷・配布に時間がとられ、開催時間ギリギリになってしまう。受付の札を「薬剤師」「非薬剤師」としたが、多職種のアンケートの中より、「非薬剤師」という表現ではない方がいいという声を頂いたので、次回は「多職種」などの表現を検討する。各講師の講演終了後に質疑応答を設け、疑問に思ったことなどをその都度質問する形式にて研修会を進行。多少の持ち時間延長による勉強会終了時刻の延長があったものの、無事研修会を終了することができた。

#### 《今後の検討課題》

- ・配布資料のやり方の見直し
- ・操作側の受付機操作に多少の混乱があり。研修会を何回か行っているが、まだ薬剤師免許番号がないとシールがもらえないという制度になっているという事実がまだ浸透しておらず、免許番号を持参しない薬剤師が複数いた。案内文の方へも記載がまだ必要。
- ・アンケートにも記載があったが、定期的な多職種の顔が見える関係構築のための勉強会などの開催（県薬だけではなく、地薬の方でも検討する）

次回以降の勉強会の構想；小規模地域ケア会議の開催

管轄のエリア毎（地域包括支援センター毎）でグループワーク（多職種の意見交換を行い、問題提起・解決方法の立案など）



医療保険委員会在宅グループ西北五支部

病床機能転換専門研修会西北五支部 開催報告

報告者 木皮 美賀

日 時 令和元年10月18日(金) 19時00分～20時00分

場 所 ホテルサンルート五所川原

出席者 行政 6名

介護関係 20名

薬剤師 18名

医師、歯科医師、看護師他 8名

合計 52名

研修内容 1. 講義 木村隆次会長

平成30年度の青森県ケアプラン面接点検事例の中で、薬が暮らしに影響を与えているかも事例を報告

2. グループワーク (1グループ6名～7名)

講師：青森県介護支援専門員協会西北五支部 支部長 木谷 牧子様  
薬剤師・ケアマネージャー等・医師・歯科医師・看護師ごちゃ混ぜチームで、今担当している利用者で、薬が暮らしに影響を与えているかも事例を出してもらう。

その中から見えてくる課題の解決策に向かってのグループワーク。

3. グループワークから地域課題の抽出・課題解決提案まとめ等

講師：木村隆次会長

グループワークで出た意見・事例

- ・入れ歯が合わない。歯茎が盛り上がっている。薬の影響なのか確認できなかった。
- ・エビリファイは前傾姿勢になってしまう。
- ・デイサービスで意識がなくなり、救急搬送。精神科の内服減らし調整。
- ・訪問時に毛足の長いじゅうたんに多数のお薬が落ちていた。
- ・薬が欲しいという施設やヘルパー→生活を見直さないと薬に頼る傾向
- ・お薬手帳を薬局ごと、病院ごとに持っている人がいる。→ほかの医療機関のことを知られたくない。
- ・薬情も善しあし→勝手に薬をチョイスしてしまう。
- ・在宅訪問の手続き、書類の簡略化して欲しい。→もっと利用者の所に行きやすくなる。
- ・認知症機能低下に影響するような薬が4種類処方されている。
- ・一人暮らしで、認知症の方は目薬がさせない。
- ・糖尿病で本人さんは気をつけているが、デイサービスで砂糖いっぱいのコーヒーが出て、ご本人さん断れない。
- ・医師には相談しにくいので、まず薬剤師に相談したい。また、薬局で薬を預かり管理してほしい。

## 報告

今回は歯科医師会から3名の先生が出席していただき、口腔ケアと病気という観点からご意見いただきとても勉強になった。

また、介護関係からは、ヘルパーまで範囲を広げて、勉強会をして欲しいという意見があった。

まだまだ、ブラウンバックが有意義に利用できていない感じはあった。



# 令和元年度上十三地区病床機能転換専門研修会 報告書

報告者：津島 寿行

日時：令和元年 11 月 19 日（火）19 時 30 分～21 時

場所：サンロイヤル十和田

参加者 薬剤師：45 名 多職種：26 名 計：71 名

## 報告

当日は 3 名の演者に講演して頂きました。

まずは私から。現在訪問を継続している方の訪問のきっかけから始まり、以降の経過に伴って行った事、現状、今後の問題点等を紹介しました。

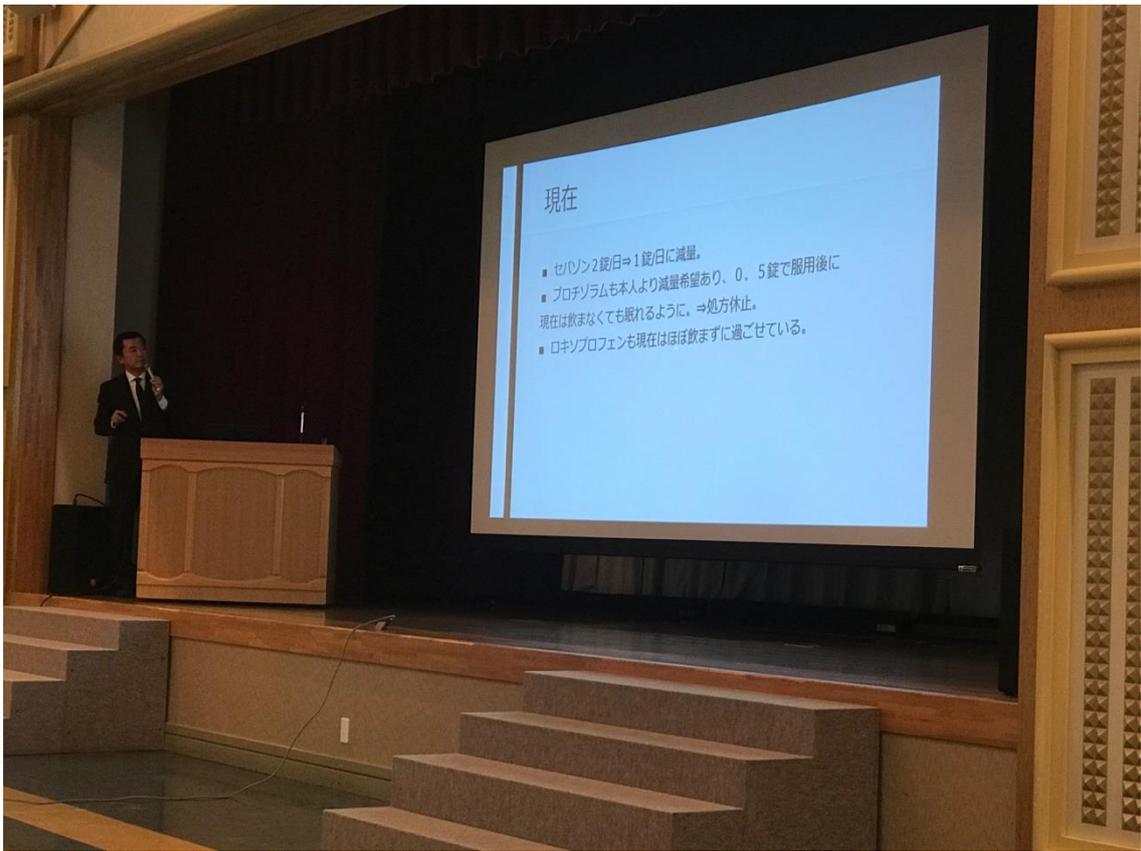
次に岡三沢薬局の佐藤 大志先生に、「薬剤師の訪問で喜ばれる事」とのタイトルで、現在自薬局で行っている往診同行、在宅訪問業務についての紹介、連携している多職種へ対しての薬剤師の訪問についてのアンケートの紹介、薬剤師が訪問する事のメリットや、今後必要な事を講演して頂きました。

最後にくらしの居宅介護支援事業所のケアマネジャー、橘 友博氏に、「ケアマネジャーと薬剤師の効果的な連携」とのタイトルで、ケアマネジャーの仕事の紹介。薬剤師に介入して貰い、多剤服用による不定愁訴の改善、薬の整理が出来た事例を講演して頂きました。

質疑応答では、ケアマネジャーから、多剤服用、残薬問題の対応の仕方等について質問がありました。

回収したアンケートに目を通してみましたが、概ね薬剤師、多職種からも好意的な回答を頂きました。普段実績がないので、具体的な事例は参考になる。また、ケアマネジャーの業務が分かって良かった。各職種の具体的な業務内容等を知りたい等の意見を頂きました。

今回の研修会を通じて、まだまだ薬局の機能や、薬剤師の出来る事が多職種に知られていない事を実感しました。今後も在宅業務だけではなく、薬局の機能や、薬剤師の職能をアピールする必要があると思いました。



日時：令和元年 11 月 21 日(木) 19：00～20：30

場所：プラザホテルむつ

参加者：薬剤師 16 名(非会員 5 名) 多職種：11 名

## 報告

大塚製薬様より高齢者の低栄養についてご講演をいただきました。

口腔内の問題やフレイル、サルコペニアに関するお話があり、当社のカロリーメイトの購入量がむつ下北地区全国 1 位という結果で話題提供として素晴らしい内容で非常に参加者から驚きの声が多かったです。

次に木村会長からケアプラン点検で薬が生活に影響を与えているかも事例を報告。

ごちゃ混ぜにした状態でグループワークを行い多職種の視点で検討してもらい、それぞれの課題や解決策について各グループで発表。各グループで検討した内容を持ち帰りまとめたうえで今後の事例に反映したいと木村会長から希望あり。

## 今後の課題と反省点

今回は地域包括支援センター職員が多数参加していただき、市として今後の課題にしていきたいと前向きな意見をいただきました。グループワークの時間が足りず、もう少し時間をとれるようにする必要あり。

ケアマネジャー、ヘルパーさんの出席率が悪く、活発な議論をするために多数出席してもらうため周知と研修会日程、時間帯を検討する必要があると感じました。

